

# 広島平和礼拝

## 2018

8月5日(日)から6日(月)まで広島平和礼拝2018が行われました。5日は「平和への導き」から始まり、平和記念公園及び世界平和記念聖堂でのカトリックとの共同の祈りが捧げられました。また6日には、原爆犠牲者追悼聖餐式が捧げられました。



毎年、広島平和礼拝ではテーマ聖句が決められます。今年「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く」というイザヤ書11章6節の御言葉が選ばれました。

8月6日午前8時から捧げられた原爆犠牲者追悼聖餐式で大阪教区主教・磯崎久師父は、説教の中でこの聖句に触れられました。このイザヤ書

11章には「平和の王」という題がつけられているが、その平和の王とは、預言者イザヤのビジョンでは、イエス・キリストであり、そのイエスが平和の道の創始者であると話され、さらにエフエソの信徒への手紙第2章14節以下にある

「実に、キリストはわたしたちの平和である」という聖パウロの御言葉に触れ、この破れ多き世界において、平和の実現は困難に見えるけども、イエスの十字架によって一致と平和と受容と和解のビジョンが示されおり、平和への根本原理は、イエスが示されたように、一人ひとりの人間が大切な存在であるという心を大切にすることであると宣言されました。

聖餐式後、梶矢文昭氏による被爆証言が行われました。梶矢氏が熱く何度も口にされたことは、一人ひとりの人間には尊厳があるということでした。誰一人としてその尊い命を侵害することは出来ず、

命の大切さをお互いが受容することが大切であることを想起させて下さいました。

平和への道を切り開いて下さったのはイエスであります。そのイエスの足跡に従うこと、平和を実現するための器として私たち一人一人がその使命を担っていることを心に留めておきたいものです。

（広島平和礼拝実行委員 司祭林 和広）



(証言された梶矢文昭氏)

### 第55回 神戸教区 中学生大会

8月14日(火)から8月17日(金)までの4日間、周南市体験交流施設大津島海の郷で第55回中学生大会が行われました。今年も、60名を超える参加者が集まり、笑顔のあふれる時間を過ごしました。

今大会は、初参加の子が多かったため緊張している子が多くみられましたが、開会礼拝を終え、自己紹介、班別親睦会、B・B・Q、レクリエーションでゲームを行うことで、だんだん参加者の緊張がほぐれ笑顔が増えてきて、とても良い雰囲気の中で1日目を過ごしました。

2日目は、午前中に運動会をし、午後から徳山めぐみ幼稚園の先生方にお越しいただき、今大会テーマの「えがお」について講話を聞きました。その後、学年別デイスカッションで参加者がそれぞれ笑顔についてのデイスカッションを行い、自分の思いや考えを分かち合いました。

3日目は、午前中にウォークラリーをし、午後から海プロをを行い、また奉仕活動として海辺のごみ拾いをしました。そして、夕方からは雨の影響があり、外で予定していたキャンプファイヤーを屋内でのプログラムに変更し、参加者全員でゲームをしたり歌を歌ったりと、とても楽しい時間を過ごし、その後、毎年恒例の肝試しを行い、最後の夜を過ごしました。

最終日は、閉会礼拝を終え、来年の大会長を引き継いでくれた松山の米虫智美さんに大会旗を渡し、無事大会を終えることができました。

最後に1年間支えてくださったチャプレンの長田先生、永野先生をはじめCS(キャンプ・サーバー)、役員、参加者、その他今大会に関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで笑顔あふれる大会となりました。

そして、これまで受け継がれてきたこの素敵な大会がこれから先もずっと続いていくことを願っています。

（大会長 グレース 福田愛）  
（徳山聖マリア教会信徒）

